

受講番号 19041 学校名 佐川高等学校 氏名 芝藤 幸

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 2年生 生徒数 30名
 科目名 英語Ⅱ 単位数(授業時数) 3時間 使用教科書名 VISTA ENGLISH Series II Step One

クラスの様子・特徴

卒業後の進路希望が就職という意見の生徒が多い。勉強の仕方に悩む意見もあり、英語に対する苦手意識からか、落ち着きが無く学習態度が身についていないと思われる生徒もいる。取り組みやすく、興味の湧く課題にはよく取り組む。

問題の確定

授業中の取り組みや課題に関して満足感が得られれば、学習意欲が高まり、興味・関心を持って取り組めるようになるのではないかと。

予備調査

A 授業の観察	B 生徒による授業評価	C 学カデータ
1学期中間テストまでは、私語や提出物を出せない生徒がいるという状態が続いた。中間テスト以降、少し落ち着いて取り組みがよくなっているように思えた。音読の声は、一斉に揃わなかったり、声小さくなったりする。	1学期に行ったアンケートでは、英語が好きでないという答えが多く、特に単語に関して苦手意識が強い意見が多かった。1学期中間テスト以降、授業に楽しさを見出せないという意見もあった。英語が好きだと答えた生徒は授業への意欲・関心が強いようである。	進研基礎力診断テスト(英語)平成18年度1年次1月最高C2+、最低D3-。平成19年度2年次最高C2-、最低D3-。1学期中間テストの平均点は20点台と振るわなかったが、1学期の期末試験以降は50点台に上昇した。

リサーチ・クエスチョン

英語という科目への苦手意識があることから学習意欲が湧きにくく、特に単語に関する苦手意識が強いクラスでどのようにして新出単語の定着を図り、授業への意欲や関心を向上させて達成感を得るようになるか。

仮説・実践・検証

仮説1	実践1	検証1
新出単語や、意味や読み方のわからない単語の発音をさせながら書き取り練習をさせることで、教科書の新出単語の定着を図れるのではないかと。	一つの単語につき、4、5回発音させながら書いて練習することにより、語句の定着を図る。最初の単語は発音をするが、書くペースにばらつきがあり、だんだんと声小さくなって聞こえなくなった。書くことには熱心であった。	単語の発音はしなくなったが、書いて練習をするというような単純な作業は静かに取り組む。自信の無さから発音をやろうとしないのかと考えてペアで発音や意味を確認させると、多少は声が大きくなって取り組んでいるようだった。
読めない単語の発音ができるようになると、教科書の本文の音読に取り組めるようになるのではないかと。	単語のフラッシュカードを用いて、発音の確認をする。教室の目が一点に集まることにより、集中力を高める。最初はゆくりと、だんだんと早く発音をさせる。単語の意味を確認したりする。発音ができるようになったら、教師が英語のフレーズを発音し、教科書より探させてノートに書かせる。または、日本語の意味のかたまりを英語に直させてノートに書かせたりした。音読筆写用プリントを用いて英文を音読させ、練習させる。	フラッシュカードを用いると発音の声が大きいが、教科書のレポート読みの声はだんだんと小さくなる。音読筆写をさせると声は小さいのだが、書く作業に関しては熱心に取り組んでいる。練習した本文をリーディングテストをさせると、自信がついたのか、1学期と比べると声も大きく、抑揚に気をつけて、テンポよく読もうとする努力が感じられた。
生徒のやる気に応じた、達成感を得るようなハンドアウトで授業の取り組みがよくなるのではないかと。	英文と日本語を照らし合わせたプリントで、それぞれの文のフレーズに下線をひいてある部分を翻訳するというプリントに取り組みさせる。提出させ、取り組み状況を観察する。	単語練習後の取り組みであり、熱心にやった。少し難しくなると日本語の意味や英語の意味のかたまりが読み取れないようだ。音読筆写と運動してやっていたが、提出状況もよかった。何度かやっているうちに“書いて練習する”ことに飽きたり、作業に慣れた生徒とそうでない生徒のスピードの差がでてきた。音読筆写した文章の単語を空欄にして、教師の発音を聞いて埋めていくというテストをすると結果が良かった。

研究の成果

書いて練習をするという単純な作業は取り組みが良い。レポート読みなどの音読の声はなかなか出なかった。1学期と比べると、だいぶ落ち着いて授業への取り組みや姿勢が良くなった。取り組みに対して自信ができたのか、リーディングテストでは声が大きく抑揚をつけて読んでいた。生徒の中にはもっと英語の成績を上げたい、英語が好きなのでテストの点を上げたい、というような学習面を向上させたいという意欲のある意見も聞かれるようになった。

今後の授業改善の課題

発音練習や音読に意欲的に取り組めるようにするというのが課題である。仮説の取り組みに関してアンケートをするべきだったと考えたが、単語を書いて練習したり音読筆写をすることで、授業意欲の上昇につながったことより、ある程度の負荷をかけて学習を身につけさせるのが必要と思われる。

リサーチについての問合せ先: 職場電話 0889-22-1243 電子メール